

第79回 獣医学セミナー

タンパク質のメチル化が制御する リン酸化シグナル

大浜 剛 先生
(獣医薬理学)

2021年 1月20日(水) 16:00-17:00

獣医学研究科棟4階 大講義室

タンパク質の翻訳後修飾は、あらゆる生命現象において決定的な役割を果たします。リン酸化は主要な翻訳後修飾の一つであり、リン酸化酵素キナーゼと脱リン酸化酵素ホスファターゼによって可逆的に制御されています。Protein phosphatase 2A (PP2A) は、様々な基質を脱リン酸化する重要ながん抑制因子です。PP2A自身も翻訳後修飾を受けることが知られており、特にメチル化はPP2Aの活性を大きく変化させます。タンパク質のメチル化は、特にヒストンタンパク質の修飾を介したエピジェネティクスの分野での重要性が認知されていますが、この翻訳後修飾の役割はそれだけにとどまりません。本セミナーでは、PP2Aメチル化レベルの制御機構や、PP2Aメチル化によって変化するリン酸化シグナルが生体に及ぼす影響についてご紹介します。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★

連絡先： 島田 (5909) 、 伊賀瀬 (5897)

